

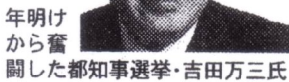
あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL & FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして!

2007.12.9 No.476(毎月2回発行)

国政の激動の中
終わろうとする
この一年!



年明けから奮闘した都知事選挙・吉田万三氏

あきる野でも、西多摩でも 頑張った党と民主勢力

市民運動を基礎に 12年ぶりに取り組んだ 市長選挙

早くも十二月に入りました。今年もいろいろな事がありましたが、党と民主勢力が頑張り、前進を開始した年だったと実感しています。

「温泉問題を考える会」が 新春から大奮闘

一月九日、温泉問題の「事務監査請求署名運動」を開始した会は、二月六日まで三千名の目標を大きく超える五千八百五十五名を集め、市の監査委員会に監査請求をしました。この間、新聞・テレビ各社が次々と取材に来て大きな話題になりました。

市長選挙に 水谷正紀氏を擁立、 論戦をリード

「温泉問題を考える会」の運動から生まれた政治団体(し)がらみムダづかいな



10月の市長選挙と市議補欠選挙

新人で無名の水谷候補は、公開討論会の中からベテランの白井、野村各候補に論戦を挑み一歩も引かぬリードぶりは圧巻でした。野村陣営は、ピラや演説でも、水谷候補の政策や言葉の一部をそっくり使うようにまでなりました。全く無名の水谷候補の、市民要求実現と、市政刷新の訴えは、聞いた人の胸を打ち、激戦の中、四千票台の支持を得たことは、当選は逃したが、次へつなげる貴重な宝を残しました。

都知事選、 参議院選挙でも がんばる

あきる野の党と後援会は今年行われた都知事選、参議院選挙などでも積極的に取り組みました。特に参議院選挙では比例票、選挙区票共に得票増を実現し、選挙区票は三年前より約千票増やし、約三千六百票を獲得し、この票の伸び率は西多摩で最高の二三四%でした。

また市長選と同時にたかわれた市議補欠選挙では、勇気を持って立候補した広木見子候補が、それまでの党の参議院比例区や市議選の得票を大きく超えて実に五千票台を獲得し、次の選挙への期待を大きく広げました。

「日本の青空」 上映会の成功など 多彩だった平和、 福祉の運動

「あきる野9条の会」の取り組みから始まり、多くの団体が協力しあって取り組んだ日本の青空上映の運動は、あきる野での千名参加目標を超えてキララホールを満員にし、大成功しました。

毎年、地道に取り組んでいる原水協の運動、健康友の会の取り組み、新日本婦人の会の各小组みの活動なども多彩に取り組み、運動の飛躍を予感させた年でした。

西多摩各地域でも、 日本共産党が 前進した年

いっせいで地方選挙では羽村市で定数二議席削減のもとで日本共産党の新人候補がトップ当選し三議席を確保、福生市でも定数減のなか得票を増やし、現有議席を確保しました。青梅市、瑞穂町で現有議席



絵手紙/矢澤則子さん・秋留在住



むすこ9歳、学校からのプリントを持ち帰りません。受け取るとそのまま机にしまって、忘れてしまうらしい。さんざん催促されないと持ち帰らないので、春の運動会のお知らせなど、夏休み直前に手元に届きました。

1年生の時にはちゃんと持って来れたのにねえと嘆く母に、「ぼくが言うのもなんだけど」とむすこ。「クラスの〇〇ちゃんは、プリントもらうとまるめて手さげに入れちゃうよ。あと□□くんは机とか手さげと

か、色々だし、△△くんも…」
おいしい、大丈夫か3年生!
でも、ちょっとほっとしたので、しばらくはあたたかく見守りましょう。この際、みんな協力して注意しあうところまで行ってくれないかしらね。(07.12.9)

連絡先は☎550-6674

▼すみませ〜ん、署名にご協力を!▼ウムツ、何の署名?
▼こんど自民党、公明党の政府が実施すると云っている「こうきこうれいしやいりようせいど」の中止をお願いする
:▼なっ、なによっ、それっ、こ、こ、こうきこうれいなんとかって▼はい、それがね、突然、厚労省が言い出して、65才から74才までを前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼ぶことにして…う〜んと、う〜んとそれでね…。▼と話がなかなか前へすすめられない私。▼一念発起して12月1日の学習会に参加(2面の記事参照)▼紙芝居での解説や前沢講師の講義、そして会場からの質問と回答を聞き、「目からウロコ」といきたいところだがなかなか詳細は未だ混沌。▼ただ、政府が新しい庶民いじめの医療制度をわざとわかりにくい言葉を使い、詳細を知らせないで急いで実施しようとしていることはよくわかった。▼政府がそうなら、私も急いで「知る努力」とともに中止させるための「断固とした行動」に立ち上がらなければ。(紀)

野良望

長生きしてよかったと言える世の中に

学習会「後期高齢者医療制度」とは？



12月1日、ルビアで健康友の会秋川流域支部主催の「後期高齢者医療制度」学習会が行われました。

講師は前沢淑子東京民医連事務局次長でした。舛添厚労相が「11年に国民皆保険制度となつて以来の大改革」と云うように、皆保険制度の崩壊と国民医療を破壊する大改悪です。

◆この制度が発足すると

- ① 保険料の徴収が今までより増え、75歳以上は世帯ごとでしたが、75歳になると個人ごとに徴収されます。74才から65才の障害認定(1級、3級)の方も対象となります。東京都の平均保険料は年一万二千九百円です。
- ② 保険料が年金から天引きされます。年金額が月一万五千元以下で、介護保険料と合わせて年金の二分の一を超える方は天引きされません。
- ③ 保険料を滞納すると保険証が取り上げられます。
- ④ 包括医療となります。丸め医療とも云って病気に合わせて医療費が制限されます。例えば月四回通院していたのが二回までとなり、より以上の診療を求める場合は自由診療自費となります。
- ⑤ 市で行ってきた市民検診など、広域連合(東京都)で決めるので有料化に向かいます。

かいます。◆狙いは何に？ 自民・公明が小泉内閣の構造改革のもと医療費削減を理由に決めた制度です。「高齢者の病気が治らない、いざ死ね」という高齢者の社会的排除を取り入れて、将来、金がなければ医療は受けられないというアメリカ型医療に変えるのが目的です。

◆これからの運動に向けて

- ① 国へ向けた中止・撤回を求める署名の取組みが大事です。
- ② 東京都・各自治体・広域連合へ向け、すでに三六の自治体が国への意見書を探択しました。東京都六二のすべての自治体の採択が必要です。



『瀨音の湯』が開業して7カ月

「考える会」が現地で担当者と懇談

11月26日、「温泉問題を考える会」は、現地で、地域産業振興推進室の担当の尾崎主幹、青木主任からお話を聞きました。

まず、入場者数は、11月23日までの累計で、16万6千余人。3月末には、24万人と予測し、目標の19万人を十分達成する見通し。宿泊も、稼働率は、95%以上で、現在のところ順調なすべり出しだとのこと。

足湯の屋根の工事が実施されていますが、これは、環境庁の許可が難しく、来年度の初めになるようです。

私たちが求めていた燃料の製材所からの残材については、「防腐剤を含まないものとする」と秋川木材協同組合との協定書が書き改められたそうです。

最後に、いま順調でも決して先行きは甘くない。これ以上の税金の投入がないようしっかりと管理運営と市民の要望を反映して、市民から支持される経営に力を注ぐよう要請しました。

「憲法まもれ」——新たな出発にむけて⑬

秋留在住

いまが永久に戦後であって、絶対に戦前にしてはいけない

ここ四、五年、あきる野原に思い知らされました。

水協の理事をやらせていた。だいています。三・一ビキニデーや原水爆禁止の広島世界大会にも参加してきました。被爆者のお話、世界各地に広がっている核被害者の話を聞き、いかに真実が知らされていないか、私の知らなことが多かつたか、適切

に思い知らされました。広島、長崎の被爆者達は、被爆六十二年を越えた今、原爆被爆認定の訴訟を行っています。この闘いの中で多くの方がなくなり、家族がひき続き闘っているのです。

日本国憲法第九条・二項には「陸、海、空軍その他の戦力はこれを保持しない。……」

矢澤則子

明確にうたっています。今地球上で一番恐ろしい戦力とは核兵器ではないでしょうか。ベトナム戦争の枯れ葉剤、湾岸戦争、イラク戦争の劣化ウラン弾、被害を受けた子ども、兵士の写真を見ても、人類が

豊作で人を困らす油地獄

順問で額賀大臣ぬかき

我が余生選挙選挙で先送り

平安なのどかな余生これ夢か

西川昇

西川昇

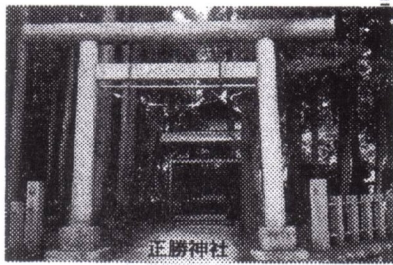
松籟坊

松籟坊

歴史探訪

第56回

地名考・菅生②



正勝神社

昔、笹や蓑を作るのに「カサスゲ(菅菅)」というカヤツリグサ科の多年草を使いました。湿地や水辺に生え、秋にその葉を刈り取って利用します。

地理局の地名索引では、全国に「菅生」の村が十六ヶ所あり、その多くの村々の名は「カサフ(菅原)」と呼ばれていたといえます。「カサフ(菅原)」は草木の生えていた場所、菅の生えている所の意であり、菅は「カサスゲ」を指すといえます。「カサスゲ」が沼地や池の水辺に生える事から、古代の菅生は湿地が多くカサスゲが生えていて、この事が地名の由来になったのでしょう。

広徳寺(小和田)の文書では須賀尾と記されています。須賀尾は一五五二年(天文二〇)平井村など近辺の土地と共に広徳寺領となり、寺領は小田原北条氏の時代まで引き継がれていました。一五七八年(天正六)創建の蔵守院の山号を菅尾山と云いますので、この頃から須賀尾が菅生に変わったようです。

草花 木崎秀治

俳句



野良猫の足を突き刺し霜柱 (富子)
二階より降りる素足や冬始め (勝代)
ひとり寝の背中を丸め冬はじめ (照代)
(やす子) 小春日や指折りうたふ教へ唄 (つや)
(淑子) 立冬の影をすくいし舞扇 (かほる)
(るり子) エホバ説く子連れ母や冬の風 (香治)
(静子)